

# 活動レポート

日本技術士会北海道本部 社会活動委員会

## 技術者のミライ研究委員会

文責：技術者のミライ研究委員会 幹事 塩見 武

### ～対面開催、土木科2年生54名(女性2名含む)参加～ 『技術者を知ろう！ in 北海道札幌工業高校』

#### 1. はじめに

『技術者を知ろう！』は、主に大学、高専、工業高校などの高等教育機関の理工学系教育現場を対象に実施している出前講座です。学校の授業や資格の重要性を説明し土木に関心を持つもらうとともに、就職後のキャリアプランのイメージを持つもらうことを目的としています。また、講演内容をより身近に感じてもらうため、講演者にはできるだけOB・OGを含めながら、若い世代の講演者を選定するように努めています。そのような方針を踏まえ、今回は札幌工業高校OBである2名の一般協力者を含めて開催しました。

#### 2. 実施概要

開催日時：令和5年10月11日(水)9:50～11:40  
対象者：土木科2年生

講演内容：

①技術士資格の説明

～高田賢一(一般協力・札幌工業高校OB)

②土木系公務員の仕事紹介

～矢野雅昭(一般協力・札幌工業高校OB)

③技術士の仕事紹介～塩見 武(ミライ研・筆者)

④3年生との協働の取組～永井登茂美(ミライ研)

当日スタッフ：千葉 裕(ミライ研幹事長)

#### 3. 講演内容

##### (1)技術士資格の説明

高田技術士(北海道開発局)からは、建設業界での行政・建設コンサルタント・ゼネコンの役割と、「技術士」の定義や制度、活動分野、取得した際のメリットなどを説明しました。特に技術士取得にともなう給与や手当などに関する生徒の関心は高く、アン

ケートでは「一番勉強になったことはなにか」という質問に対して、技術士取得のメリットを挙げる生徒が多かったことから高田技術士による説明は印象に残ったと思います。また、冒頭の自己紹介では働きながらの大学進学や寒地土木研究所への出向などが紹介され、多くの経験を積んだOBに対して「色々な経験があってすごいと思った」という感想がアンケートに記載されました。

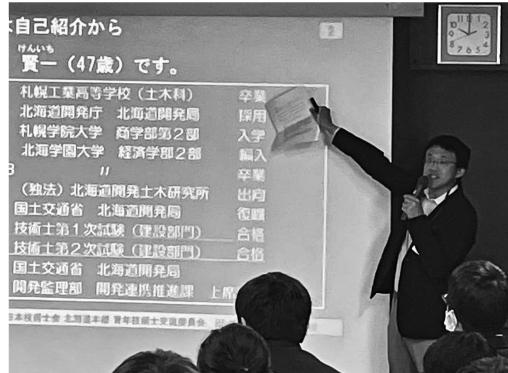


写真-1 講演するOBの高田技術士

##### (2)土木系公務員の仕事紹介

矢野技術士(北海道開発局)からは、自己紹介として、河川の工事や管理、寒地土木研究所での研究、国際学会での論文発表、社会人ドクターの取得などの経歴を紹介した後、ダムの管理業務について詳しく講演しました。住民参加型の避難訓練や今まで経験したことのない豪雨時のダムの流入量予測など、高校生には少し難しい印象もありましたが、アンケートにはダムの緊急放流や魚道に関する専門的な質問もあり、生徒たちにとって興味深い内容になったと感じました。また、OBということで高校生活でのアドバイスや就職活動に関する質問も多数ありましたが、時間の都合ですべての質問に回答できなかつたのが残念でした。



写真-2 講演するOBの矢野技術士

### (3) 技術士の仕事紹介

塩見技術士（筆者）は、『建設会社で必要な資格ってなに？』『技術士がいると現場は変わるか？』という2つのテーマで講演しました。現場で必要な資格には「1級土木施工管理技士」がありますが、技術士との違いを説明しました。また、1級土木施工管理技士に加えて技術士が現場にいることで「発注者に対策を提案できる」「不具合を未然に防止できる」ということを自身の現場経験を踏まえて説明しました。

アンケートには、技術士取得のための勉強方法やモチベーションの維持方法など、技術士に関する質問だけでなく、1級土木施工管理技士について多くの質問がありました。札幌工業高校の生徒は建設会社への就職希望が多いと聞いていますので、これからの参考になれば幸いです。



写真-3 質問に回答する塩見技術士(筆者)

### (4) 3年生との協働の取組

当委員会では2018年から土木科3年生の課題研究授業を支援する活動を行っており、永井技術士（合同会社LinC）からはこれまで実施してきた取り

組みを紹介しました。また、3年生からは現在取り組んでいる札幌市東区の広場の整備について、具体的な取り組み内容、後輩へのアドバイスなどの説明がありました。聴講した2年生は来年度の自分たちの取り組みを思い浮かべ、身近な先輩の話を真剣に聞いている様子が印象的でした。

写真-4 土木科3年生による課題研究の様子  
〈住民の要望を踏まえ階段を施工〉

写真-5 後輩に説明する3年生

### 4. おわりに

今回の講演者は、いずれも複数回の講演をこなしている経験豊富な講演者であり、生徒にもわかりやすく内容が伝わったのではないかと思います。特に矢野技術士の講演では、生徒から「面白い話もあって楽しく聞くことができた」という感想があり、自身の失敗談などユーモアを取り入れた講演は好評だったと思います。

最後に、川村先生、梶先生には、お忙しいところ開催に際して多大なご協力いただき、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。